

平塚らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

らいてうがのぞんだ 「核のない世界」を

総会報告から

会長・米田佐代子

世界が動きはじめています

4月18日の総会とその後の理事会で、会長に再任されました(館長兼任)。大任ゆえ心臆するものがありますが、同じく再任の副会長・事務局長・新任を含めた理事ともどもがんばりたく、あらためてご挨拶申し上げます。



「らいてうの家」オープン以来、会長・館長の仕事は「家」を守り、「らいてうのころざし」を発信すること

だと、理事や地元のみなさんとともにひたすら走ってきました。今時代は大きく動き、オバマ米大統領をはじめ「核のない世界をのぞむ」と発言したことはご記憶に新しいことと思えます。それは、らいてう自身の希望でもありました。その希望は冷戦時代何度も挫折しましたが、らいてうは日本国憲法九条をよりどころに「わたくしは永久に失望しない」と訴えつづけたのです。今も核をめぐる状況は楽観を許しません。が失望せず、ら

てうのねがいを実現するため会の活動をひろげてゆきたいと思えます。

活動発展のため、二百万円募金にご協力を

総会には多くの会員が出席、上田・真田らいてうの会員もみえて、上田市からの援助も受けた学習講座やコンサート、植樹や森のめぐみ講座、郷土料理の会などの活動成果が報告されました。しかし最大の問題は「財政」です。「家」訪問者の範囲は広がりましたが、総数では目標に届きませんでした。会は現在二百万円の赤字を抱え、このままでは事務局活動が確保できなくなりそうです。通信機器の整備や、『紀要』の発行などもすめなければなりません。現地の活動拠点も必要です。

さまざまご提案がありました。最後にたどりついたのは、NPO活動の基本に返って会員拡大の努力とあわせ、応援してください。さまざまにご寄付をお願いするほかかないという結論でした。総会



なごやかに、熱心に討論しました

では、今年度はひろく「総額二百万円のご寄付を」お願いするという提案が了承されました。すでに「ご寄付のお願い」がお手元に届いていると思いますが、これまでも多額の建設募金、また会費のほかに維持会費や維持寄付にご協力くださったているみなさまにはまことに申し訳なく存じます。でも、今こそ「らいてうの火」を灯し続け、「世界が一つの平和にむすばれる」日をめざして活動したいと思い、お力添えをお願い申し上げます。今後の財政問題については、プロジェクトをつくり検討する予定です。

事務所移転も日程に

なお懸案の事務所は、今年度中に都内文京区にあるビルの一室を、家主さんの破格のご好意で借りすることに。総会で承認されました。近く移転の日程と新住所をお知らせいたします。お金はありませんが、活動の体制は確立したいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

今総会で選出された役員は次の通り

- 会長・米田佐代子、副会長・折井美耶子、木村康子、中寫邦、堀江ゆり
- 事務局長・小林明子
- 理事・飯村しのぶ、井上美穂子、植草充代、小野塚歩、小池道子、小林典子、斉藤慶子、坂口久美子、佐藤実喜子、杉山洋子、関町好子、花岡静枝、三留弥生、山田繁子(以上再任)、木村見江、富松裕子、藤原美津子(以上新任)
- 監事・江川邑江、小島妙子(以上再任)

09年 らいてう忌

初夏の茅ヶ崎へバスツアー

5月21日、総勢30名は五月晴れの生田「春秋苑」にある奥村家のお墓に行きました。らいてうさんがお好きだった、黄色いバラを手向けお参りし、「碑」のある茅ヶ崎へ向かう。車中ではらいてうが「私たちの愛のふるさと」と呼んだ、茅ヶ崎での奥村博史との出合いを折井副会長が、「らいてうと平和」を米田会長が熱く語り、一同感銘。

茅ヶ崎市高砂緑地公園内の「碑」の前で、茅ヶ崎らいてう記念碑を建てる会の方がたの出迎えをうけ、しばし思い出話に花が咲きました。また、茅ヶ崎在住のあずまや高原「らいてうの家」のご近所の斉藤さんご夫妻も見えられ、高原に別荘地を買ったいきさつなど伺いました。まこと縁とは不思議なものです。

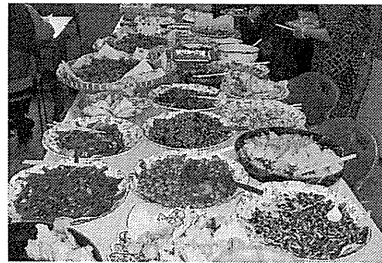


茅ヶ崎館での昼食交流会では、らいてうのころざしを継ぐ話が次々と、時の経つのも忘れ語り合いました。

帰路立ち寄った南湖院は入り口の大楠木の梢をわたる浜風や黄色く乱れ咲く野の花に、いまにもらいてうさんが現れそうな、そんな懐かし

い想いにひたつたのでした。(山田 繁子)

自然の恵みを味わい 楽しく集った高原春祭り



5月31日(日)は、あいにくの雨。小降りになったかと思うと大降りにと一日やむことがありませんでした。それにもかかわらず、72人の仲間が長野県薬草園の研修棟に集まりました。岡谷からのお茶のみなさんは美しい着物姿で緋毛氈も鮮

やかなお茶席で、美味しい和菓子とお茶のお手前で優雅なひと時を演出してくださいました。お昼は、前夜から真田のみなさんが準備してくださいました。お昼の山菜など山菜の煮物、当日準備していただいた揚げたての山菜てんぷら、暖かいおにぎり、シユウマイ風の肉料理などバラエティーにとんだピュウフェスタイルで大好評(写真右)。「もうないの?」と「売り切れ」が続出、一同大満足でした。

ネイチャーガイドのみなさんから川釣りの山女の炭火焼のサービスがあり、その美味しさに感激の声が上がりました。地元の手作りのお店、ガラスアートのお店でのネックレスなどの買い物、ペダンントの創作体験も楽しく好評でした。

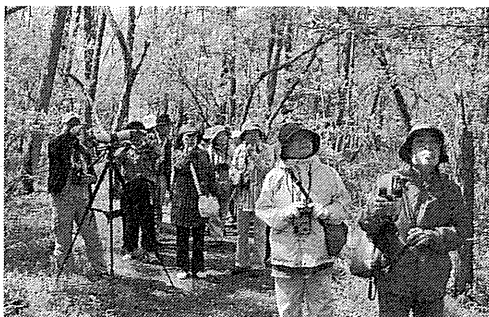
最後に東京からの参加者のお二人による粋な「かっぱれ」の踊り、地元の方の「元始女

性は太陽であった」の独唱に大きな拍手が送られました。

雨が上がったら植樹をと思っていたのですが、止むことなく、山菜ウォーキングも中止となり植樹は次の日送りに。

楽しかったバードウォッチング

翌日は16人が参加して、新緑の菅平湿原でバードウォッチング。初めての体験者がほとんどでしたが、野鳥の会の小柳先生の適切なガイドでコムクドリや真つ赤な口を開けて囀るオオヨシキリ、そのほか色々な鳥たちを観察できてバードウォッチングの楽しさを味わい、菅平湿原の植物についても学ぶことができました。菅平の丘に上がると、アズマギク、オキナグサ、スマレなどが観察でき、柔らかな蕨の収穫もありました。



丘での昼食後、有志で、らいてうの森に植樹に行き、夕陽の中、緑に輝くカラマツ林で汗を流して二日間の春祭りを終えました。らいてうの森も植樹を続けて4年目となり来年は、最後の植樹となる予定です。

9月26日には、植樹地の笹刈りと郷土食の集いです。来年植樹予定地の笹刈りもあります。苗木の様子をみながら秋の森の爽やかさと味覚を味わいに来ませんか。

(三留 弥生)

博史の指輪—ミキモトの宝飾展に

「日本の宝飾のあゆみ二五〇年」という展示会が、5月14日から6月1日まで東京銀座のミキモトホールで行われていました。友人から「博史の指輪があるわよ」と教えられて観にいきました。櫛や笄、簪などと一緒に指輪が2点飾られていて、「日本の創作ジュエリーの創始者」というような説明がついていました。そのような評価が定着してきたのかと感慨深く見入りました。

同じ日、ミキモトのすぐ近くギャルリ・プスの築添正生さんの「銀の造形展」も観ました。祖父と孫の創作が近くで展示されているのも何かの縁だろうかと思いました。(折井美耶子)

内山完造没後50年の集い

5月17日、岡山県井原市で地元出身の「内山完造先生没後50周年記念」の式典があり、戦時下に魯迅を守り、日中友好のさきがけとなった内山完造を讃えました。中国からは奥村博史「魯迅臨終の図」を所蔵している上海魯迅記念館ほか多数の要人が見え、魯迅のご子息・周海嬰さんの記念講演がありました。会から米田会長、杉山理事、それに岡山の会員藤井さんが参加、「遠くからよく来た」と歓迎されました。

「家」のステンドグラスのライトアップ

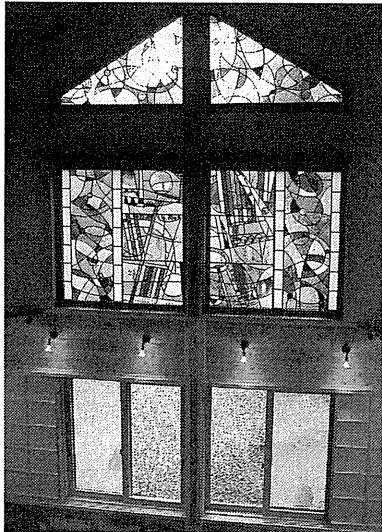
7月25日(土)〜8月29日(土)までの毎土曜

日、夜8時までステンドグラスのライトアップをします。

「らいてうの家」イベントのお知らせ

夏から秋にかけて、多彩なイベントを計画しています。どうぞお誘いあわせてたのしみにきてください。

- 7月5日(日) 子どもまつり(葉草園)
- 7月12日(日) 戦争体験を語る会—70年の記憶
- 8月9日(日) あずまや高原地域懇談会
- 8月23日(日) 佐藤真子コンサート「らいてうをうたう」
- 9月12日(土) りいてう講座II講演と映画の会
講師・早乙女愛「私と子どもと青い空」
- 9月20日(日) 源氏物語講座 講師・宮島満里子
紫式部からのメッセージ
- 9月26日(土) 森のめぐみ講座II 笹刈りとキノコ鍋・郷土料理・秋の高原散策



「らいてうの家」のステンドグラスの窓。夕日に映えます

*ニュース4月号でお知らせした9月27日が26日に変更となりました。(この日は上田からバスを運行します)

「夏の雲は忘れない」

—1945・ヒロシマ ナガサキ—

*首都圏講演日程のご紹介

- 8月1日(土) 午後2時 東京・府中の森芸術劇場ふるさとホール
- 8月3日(月) 午後7時 東京・世田谷区民会館
- 8月5日(水) 午後5時半 埼玉・川越市市民会館やまぶき会館
- 8月6日(木) 午後3時 東京・豊島公会堂
- 8月11日(火) 午後7時 千葉・船橋市勤労市民センター

「夏の会」女優6人と地元有志が出演。
連絡先090(8004)1985「夏の会」

各地から温かいご寄付のお申し出

総会で会運営のためご寄付のお願いを決めたときは、「これ以上無理を言えないのでは」というためらいもありましたが、日本女子大前学長後藤祥子先生をはじめ、温かいご寄付のお申し出が相次ぎ、感激しています。後日ご報告しますが、みなさまのご期待にこたえ、「らいてうの灯」をかかぎ活動してまいります。ありがとうございます。

(会長 米田佐代子)

第三回猿橋賞受賞者

大隅正子さんを訪ねて



今年、らいてうの家では「らいてうと平和」をテーマにパネル展示をおこない、らいてうが一九五八年国際民婦連の第四回世界会議代表としてウイーンに送った地球化学者猿橋勝子さんのことも紹介しました。おりもおり物理学者米沢富美子著『猿橋勝子という生き方』（岩波書店）が出版され、猿橋さんとらいてうとの出会いや、ウイーンで「核兵器がもたらす災害について」講演、各国代表から賞賛されたことなど、興味深く読みました。



猿橋さんはまた日本の女性自然科学者を顕彰する「猿橋賞」の創設者でもあります（米沢さんも第四回受賞者）。そこで今回は日本女子大出身で長く母校の教壇に立たれ、一九八三年に第三回猿橋賞を受賞された大隅正子先生（平塚らいてうの会会員）をお訪ねしました。先生は一九五七年、「家政学部家政理学科二部生物農芸専攻（一部は物理数学専攻）」を卒業後すぐに助手になり、アメリカに留学後同学部教授、そして一九九二年に新設された理学部の教授、学部長もつとめられた方です。

ご経歴を列記したのは、創立当初らいてうが入学したとき「料理実習には興味がなかった」とい

う家政科から、戦後三四年に亘る宿願を成就し私立女子大では唯一の理学部が生まれる過程を、大隅先生ご自身が歩んでこられたことに、感慨があったからです。「子どもの理科離れといいますが、女の子はもともと理科嫌いではないのに、理工系に向かないといわれてきただけだと思います。機会さえあれば女性は自然科学の分野で活躍できるし、したいと思ってるのではないのでしょうか」というお話には開拓者としての実感がありません。

お生まれは逗子ですが、お父様が「教育は日本女子大で」と戦中の東京に転居して女子大付属幼稚園へ。空襲で一時的疎開したほかは小中高もずっと女子大付属でした。高校の先生に影響を受けて生物が好きになり、親に反対されて理系進学をあきらめた級友もいるなかで、自分の意思で生物学を選ばれたそうです。猿橋賞受賞時の研究テーマは「酵母細胞の微細構造と機能の研究」でした。

ほかにも紫綬褒章を始め多くの賞を受賞、定年後の現在は認定NPO法人「総合画像研究支援」―生命科学の進歩に必要な可視化技術（電子顕微鏡など）の利用・普及・専門家養成などを支援する機構―の理事長として活躍中です。

「これからの若い女性にメッセージを」と願いますと、「初心を貫き、やりたいことをやりましょう。くじけずに意志を持ち続ければ、きっと家族も応援してくれます。結婚してもしたいことをあきらめる時代ではありません」と明快でした。かつてらいてうが「元始女性は太陽であった」を書いたのはエリートのためではなく、「女が思

ったことを正直にどしどしいつていっていると、きっと本当のものが出てくる」という意味だったので、大隅先生のお話もらいてうに通じるように思えて楽しいひとときでした。（米田佐代子記）

「事務局日誌」

- 4月9日 「らいてうの家」水入れ、大掃除
- 4月10日 08年度会計監査受ける
- 4月10日 遺品搬入
- 4月13日 第5回理事会
- 4月14、15日 「家」展示準備
- 4月16日 09年度「家」オープン記者発表
- 4月18日 第10回通常総会開催
- 4月23日 紀要編集会議
- 4月25日 「家」オープン
- 5月9日 あずまや高原自治会総会に出席
- 5月14日 第1回常任理事会
- 5月17日 内山完造没後50周年記念の集いに出席
- 5月21日 「らいてう忌」春秋苑・茅ヶ崎記念碑・南湖院を訪ねるバスツアー
- 5月22日 薬草園開園式に出席
- 5月27日 「ご寄付のお願い」発送作業
- 5月31日 森のめぐみ講座「植樹と春祭り」
- 6月1日 バードウォッチング（菅平湿原）
- 6月5日 紀要編集会議
- 6月17日 「会と家」の今後を考えるプロジェクト会議
- 6月20日 らいてう講座1「らいてうと『九条元祖』の男性群像」米田館長
- 6月25日 記録映画を上映する会総会に出席